膝栗毛

十八

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

東海道中膝栗毛七編

東京圖書館
和書門 小說類
二六函 一一架 九一號 四三冊
120 53
120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

道中膝栗毛七編

明治十年交換

TOKIO LIBRARY
FOUNDED BY MOMBUSHO

擬玉八駿ヨ卿して王冊が挑ぶ世。
夫蘭丸従法師破ものひとよ
名馬の功よりきろ。こるよ仏ニ
今米。花多ハハぶの欲る石千
随ひ膝栗毛よのうち書まる。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

四方より奔走して果もやきハ。
八駿まも繪てたのかるし。
うの生嘻。磨墨るそバ十
うぢ門の名乎ひも知へきよ。人
喰ひ馬より毛合口同士。猪を
猪の菊ハこそ八ハ。これ此栗毛

の徒ならずや。つあ鎧何より七
縁の緒ハ作者の名ハ印も亭も
よぶかうて筆を揮る毛

文化百年

乗山人 [illegible]

編笠の出はうそく

いんせんの
賞ちゃまれた　さいふ
抑　平事

共角

道中膝栗毛七編上

十返舎一九著

或人の句に花見る都る牛寺くに行く御堂八寶
寺地蔵堂鎌の座天王宮四ツ天王寺慶蓮寺
ちるいろもさくちり。孫に花の盛ふ秋の秋ハ。東
西南北に。ちる。墨の。地あくて。が義門名酒
の樽。こもも人の袖と。ば。ば。高人のよき夜さ
るハ化國に出ふ。て京の花。ことゆの若ハ蓋

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

西陣の織元より出張いろの花やぎうハ堺川乃
ゆゑ清く。釜りの松しろ川堺のかのこへゆきと
あぎむさは新堂の舞伎のうちまた風俗香
堂ものの稼。九山かるやき大佛ちち野蛾の稲荷茅
くろ屋の本屋清八寺洲陸奥よいちぎく寺
のせを生の芸八名物選よさる屋
き奇剣の品物おもしろく入むる猪
あの夜人伏見嵯峨嵐山表象ハ
刷毛屋ままぶれ出ぶれども。淀川の下り船ぶ
ちぶしして荷物とそろひ。五条新地の一つぶれ横路る。
さや春色して九稲ちなうる。ちうハの名ふも似る
ど。国行の浜沢ら清が本綿合羽を借名せし
わぶの侍名ふれぶかる洛湯の地ものうぶ。
うなく。新地りぐうの朝風亜ふ若こりう。茶の
ちふさかうるま。岩ハ中ぐ牛岩尾の千人切
ちまふ西ぐあれぶ。ちぐハ本ぐ折ふきて

このる処いらしろ花のたぐゝみて
糸屋　じゐの　布子　とひしき
かくて来るよりうて河原の向ひつ出ハ情もなく
ぐうとるゝてそ隠ぶ猫の縁よりかてぐうゆく
ろまぐゝおもべくにまゝ猫ともあるぐ
着物でもヌのけゝぐんなでも綿入ぐ一まんねゝが
猫ぐさんいくちゝ名ハ猫人の一せいかゝぐものふゝしゝぐ
いぐゝぐゝの板ふぐ。ちぐゝふちつてゝるハ。あゝう

めぐべゝをぐゝてきむくてちゝ猫人ゝ可そんるくさい
ゝいこゝふ湯屋があるまゝトちよつゝうまゝていゝ
猫人ゝ可ゝこゝろハさあゝく猫ぐさんおきゝ人ゝあゝゝぐ
ゝトちゝくさんふあゝゝしぐゝあゝちのの猫をぐて
ちゝくゝゝゝあぐてゝちゝふゝゝくゝちゝゝ
ちゝさん猫ぐゝいるゝさんとのゝぐゝく　トちゝゝゝ
ゝるふゝゝ　ゝいゝ人ゝ　ゝい湯屋ゝゝゝゝ　ちち
ぐゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝゝ
の時ゝ兼ゝゝ。ゝのゝぐゝあゝさゝいゝゝで　せんゝゝゝく
ゝゝゝてゝぐゝの。ゝゝ　ゝ生湯ゝゝゝ。ゝゝ出ゝゝぐゝの

[illegible]

ちゃくいめへまい　トてどちらいるぐらゆくまるとまるこれのるぎや
[illegible]

ぬのこいいろろ糸りるまるの〜ハイ〜〜とろちゃへおろけなされ。
コレおちやりてらんなおらさだこのちもちあいるいる赤
のびろちゃくらきんせイヤ茶もしぞもいりやせん
ゴリヤアいくらぞうみまは旦ハイ〜〜たちゃきあうしく〜
ふぞきうまとおやをしてあげふるいるハイおちゃ

あぐうちるされたも一長者。そちゃおゆるいどやないいる。
ちゃぜ。あついちゃあげんぞいハイヤおるさるぶれちゃ
ぐもじやさいい茶ちゃ梦なくもつ芋つちでどぎうまを
[illegible]れいきのハ梦ろこまんまのちゃでどぎうまをいる
いろさるきのふのお費花ぶるてさんと河童の
屁のようぶぐイヤ屁のついでよ尾義ちぐ〜立ていしも
さんまるめきこい。おうろとちゃ〜ハイ〜一優へ
おいいる一せちんハるふぞうせ能ふるい

てどやあろぞいなぶ十二畳とと誰が沸しさぞい。
ぶぞ
ぶそれじやてこいんものさぶ日こてごがさんでこさいさぐ
行
いてゆんなされかつぷやく煙ぐ出てどやあろ一ち〜むさい
てらふあろどや一そんなとよう山布こいとやく
きあてこん稲ぺさもくてとこんられぬこも一あさむこへかろ
能
くころちやへようなされこないふよよ日ぐさこてどや
ろろなきのもどろういよおぶこおろこぐこりやきぶう
暖掃
ぶい。ぬくひうちどやてこそこふ一日ひなこぐとていなれ

ぶ
ぶうこぶこのおろこぐりぶ。ぶこ稲ぶうこぶこいでもどん
ちあん毎日ここのうちく日向おここふとろうろるここ。出板
ぶぶぷぷこてどやあろころるぶこそぎころこぺこりやアうろ
稲ぺのろぐぶこぶこるぶハイくうろどやころるぶやもくこてこん
稲ぺ一ソノ紺のおひるどやなト。ここぶこ三拾ぶくむこん
ぎろりくどやこるぶこぶろりく。ろちこれこどかぐがた
ぎ
ぶぶ高こぶぐこでいろもころあろけてぶるこぺなぶ
りんどやア稲ぺぶんここの西こいひるせぺ一ハア出西こ

ぎうとあれば。おもいさまも右兵衛おさまれとうい高麗
ヨトこれ質せうだいさ高麗ちとあれば仏ういか。おそう
おさうのう。金ちおさうのう高麗おくのぎは男の甘うぎい
さ高麗れぎうう。質ふおく時の筆有うしてかいらゆゃア
うはまとやせぬ式ぬのとへぎふしても。をメよりあへ貸へ
めうう。郡身ぎうふうはゆゃア狭がいく高麗おふいはぎや
ぎいう。後京の志ちやへもていても。金ちうへちのいへ
ぎう。ちとうう高麗そんぎとといふぎふして志うをれや

志うう高麗十二志方つくんうへ志ゆ志ちまいう高麗れ
そもおめへ。志元ふうけおさるう高麗ちけうう高麗ふうう
ても。あてゆゃアちう狭へうれようう畔留の投引
の出へぎふ志ちおさる。そして給の時がしもあるし。
をふもおめへうぎも京が脾胃虞して狩ってみるうへ。
かうおが疫病で志ちれされぎ。佛へうて莽乳と
出ちと二面が出志ぬしう。うてのおうのうゆへ貸てあげ
うものと義捏のうるいへうのて。式布子へうの給

のこぶ所ろておきやせうと云はれた。ろくもりかぶやく
ふもの見をいてやろいか。こゝが業がろ殿で
まんざいか。あこけらのかこいんを見ーあいかた
こそ浜ばくへぞかも世間ハくちがるくてちりやせんかる
きるせんそこ伝角とめんぞうか。そのぬのこも。きあて
あまけてちりかせへしーよどうまを。朝南ひいやま
けてあぎるろうか。やしくくまぐべ。ぬのこぶありつひさ
ト浜ばくろ代浜とこそんせ。ぬのとときこ浜ばくを見ます後合朋
をくしぶ代ばくちがるこのめんとかれたこそやしあるこおかひよりて

和歌内こまあまくうの古布子
老一くそんアれたあしくきれ

これよりきくハい初つこそ乱とこそ浜沢
さんまきまくろう。古こ屋めとちゆくぶこ。え
ぐうくてきあるこんきとくへやきいかんぶ。ろかる芸
まくぶ拾浜もはう孫人りめを縫の着板くろへて
おいくぶおこそものよきぐ。てくどいての初こそ
伝くらあこのどくこぶよいまかるぶちくきる。

ア　おもきき
ア　ぶまわりしの　さろう　ぶまもが　ぶまろう　大ろう　こ　宮川
所ろふ　まんさろう　ぶ　ぶ　ぶるぞ〜く　美〜ん　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
い〜ぶ　おいろう　ア　きのを　ぶて　よろう　ぶ　まんざろう　えぞろの
ろう　ぶ　ぶの　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

[illegible]八まめのきものをぬぎや。背中のよこちょう。
大きな紋所が。こへつついてゐるア[illegible]ごこふく
[illegible]トちうえうて
よくを見。
[illegible]コリヤ
大変
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆ〜くとさうさうい。ア〜お出なされ〜トスとあふらのまよひつぞう。
あがるくさぐきぞんまうぞうを向ふさぐきあまくべまうぞ。こうい〜
ふれうあうこもちくの内ゆてゆうのあまくくくくよ〜こうぐうう
うぢあ〜〜まんぢうよいういる〜茶ァあがうんうのか。
ちやぐぞぶぢいる〜ぢん付ふ乞〜〜〜ぐうぎふ大人ぐ。
ふう〜ふぐの芝居の半分でも稼へ〜ア〜〜いうぐ。
一ちんのこうくちうぐ〜〜ア〜後ぐうまの大根ぐ。
ても黄ぐくこふ〜ぐうぐうぢ治山〜ろ人ぐまぐうう
ちう。後ままうぐ人〜まんぢうぐぶあのまべとうが

いうちうとうてあう。コレまんぢう。こうぢ吧ッくんる美人
〜〜〜〜。こ文ッてぐうまを〜〜きのけんぢう〜コレまんぢう
やきんぐ〜ぐうんぢやぐい。ちちの年寄ぐうぐぢや
〜〜〜〜おゆしるされ〜アイタ〜〜。どうぎふ見をあんぐ
〜〜〜〜。モレちくおゆしるされ〜ユリヤぐぶまゃァぐ。
人のあくまのうんを。金玉をひきぐうてこをうまァ
ぐる。ア〜きくぐ〜〜〜〜

ヨシヤ。今あの様子で。毛蟹味ひのくて
ばやさうい。ソレ丸そぬて。おそるこそうる。サアくと
ゆいなりんぶやト竹の皮を八ア結のさとりぶらいな。コリヤ
きよこいく。その強い弁当のようあつて。さうなへ
ろぐて。酒のさかなさんせ。それがよいこらいなへさま
ばや。竹の皮のかそらんで。草履のそるとくそる
ヨシヤ。イヤ丸よ。一重やろうなヨ。ちやるちやくとれ
みしろうよりついでのれ。一盃次さん丸盃へうま
ぬいとをとをふとまり

のこあるぶくまん。ヨシヤいやまんてをらんあとぶ
ヤ。コレおがうさん。おまんひくあげやせう。トおのれが分の
ちくひくうさんきのどもあまるこれおそ。コレハかみぶふ
あるけてさけをのりふくらんとくうう。
ばばうまをこいな。ヤおらんぶアよいめとあがうな
さる。おまらも酒へおまえらな。ヤさうく。ゆく
よくへ好物さ。ソリヤよいおこのくそばやこいな。コレ
撥長屋さん。もひくいでこちいな。コリヤよい酒
ばやな。ヤさよばや。ホシ。おそうのおあ。遠屋へ

あろ。ヒヤヒヤとひろ。あぐらんらいなト ちやうんをたいぐを
ぎやくいハイ あうがうとうぎぐれやをを 赤らし。さめへせん
ういな。モレ おてしどど。それ人 あぎとよろいな ト 茶やのぎん
ヒヤヒヤ。ちやけるうてそちけうハ ヒてちや ごそうなぺつへく
ついでのめべ。やうひ茶をり ヒてもぬるん 年よぐぐで 是へ
キミ
ヒおぬるうさじや あろ ヒてもぬるん 年よぐぐで 是へ
その 陸利のをうめて下さうまゆ とめハ赤ろう。コレ
ヒんなされ。とういよあろとこいるト ろうをさらさるを
どうさしをどな いめへまんぐ。まんぐ一ツがうふ あを

ト ぎうくうのうちふぐでこいひぐぐう。
ヒ ヒうざふく ひゆう カツチく ト 内ロ まもまを てんく
てれつくてをく カチ〜〜 ツテニく きくひらくを ちををうう
三味
ぐのやく。ぐぐい イヨ 大根ウ 十抱ひとうげぐや 十二
ぐぐこ ぐむ
大根ぐ。アノ 役者のてう。ぬのてう ヨウ ぐけまをの
ありがぐてくやをと トびきこハいろて 赤ぐのをきまゆぐが
ぐむ。ふうゆ大きるこスてあるゆぐがあゆ
こるくおうしぐう。きこハのうををうとと
ぐ大根ぐうるゆ。ぐこゆハ役者の下をあを
ぐうむぐ。くぐが大根くうををきうをうふ
ヒ 陽 イヨ ロ ヒ ア
ヒ ヒ ア
ヒ ヒ ア
ヒ

芝居ハ四条鴨川
西東ゆゑ永禄
年中ハ江戸の良
人名古屋
三左衛門とゆすりの出雲の
お國とゆゑ風流女とかくい
歌舞伎と名付て男女共の
狂言とまぜ北野の森祇

その南の林五条ゆゑ
奥の行 七条後中
絶して第五二年ゆ村山又兵衛
ゆゑの四条ゆゑ中道ゆて
再奥ゆ又縄手四条の少ゆ
うし永ゆ宮久
寺中今の地ゆ
うして
常芝居ゆゑ

ぶいうるを見て　イヨ　ちゃうろく
ホハとホたらうして　目録さま　アト　きこハをとらふ　たこぢこを
わうろくとらふ　ふ　ぶ　ぶど　ぶを
いふぢうをけとらふ　ぶ　ぶ　ぶ　きこハこんの　ぶのことを　きそいるゆ　ア　ぶ　ぶ　ぶん　ぢん
きこうるとちゃうめてぢくらふ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　きこハちゃうろくのことけを　ちゃう　ゆハ
ホハ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

ゴリヤごぶさたの山の秋の月
どんせいとうまもうつるせやイ
よいとうまコリヤきまるとこちは男とぞふまるイヤかまの
いもどんせ〜〜トやうとうふつうあげてよろきおろ〜〜
すくそめんとうどこもくとこしくぐ
きまとまとまじごとんまちのうふもも
戸渡と持ふ古まの布子ふて
きもじぬも 紺のぶんやふせ〜〜
それようゆき〜〜て雑賀の社中英

へ大政所牛頭天皇宮の間い八まて子。西の間へ稲田姫
武こ宮の出宮。出屋士よりの屋敷の
時。摂津の屋の家よ。出張しぬふと出家なまろく
いまて。桜社赤社まるまふいくふ食あるぞ。金清日
日ふ群集〜。茶屋赤まて雑賀屋
く。出屋うの屋合横。出家赤のいひて。うきこせ
りのまの家能程くこ城内よ西出宮まで。こちくこう。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

とくく考へて。雨の方揚りを考へ。二けんぢやなどゝふでんくの
めのぐろうてあらまんどふしうなどもあるのうどふそてしやだうる
おまつとうされく。とゝあまりうさうんうる。コレナ
おまつくさうんうる。ハヤ。ハヤ。ハヤ

このくまを、ハイ、くかこうまうとトゼんをニ番ふめし
たちぢんくさおる出
ハイおでんが出けまして、こちらの変る田ぶ
ひまこどやこちらるおむしの品ぐ、ハいこちらてざ
ハイ、いうふさ人虫をきぶつこちらて。田ふへきこうぢて
いこどやア稲人ぶ。サア、ぶんたもとあ稲人ハイ、こちらくなるかぢ
いて酒ぶ。ちっぷくて稲こちらのあ酒。ちよいろぢんはぶけ
よふ、こしおめぐこでこをいひちぶこ。ひとこちらでのむのぢこ
きろちえよこ稲人ハイ、ぶ人ぶよこれでハいうぬ。もこ、く

酒でさちるこをひこうハイ、トトぶてきぶ
ぶをおまこ
いこうぶハイ、我ぶみトでぶこうまきて高ハイ、こちらハこんく
ハイ、こうちあハてかきや。おんまう歩こぶけるくちやぶう
とぶおまこぶこ自こうせてある住住ぶある。トぶんぶこちるを出
きて出こぶけのあ酒
のこうぶこちらひちるひて一サリ、女中動宮こしみこまを、ハイ
こを出へトちまうけぶこちふハイ
こをこちりちきこる。ドこ、ハしんやぶろとこあぶ
けまう付ぶ、ハやく指我ぶみトこアぶこうせへふこ長く。
我来ぶこうひのぶ酒こさんまけて世ひるせへハイ、ハ

ものもいはずにぐにぐしくはたらきまわりてきゐる。さてまこハ。あの
物ごできてこれをみるはなしてるるごぜ　トまうがこえ　ひらぐんぶう
なごをこうるたるごをゆて　ゆへきこハ　ゆたきく。それをごふまるゆ　コレ女
ものこりやア　こうる。りつてるくうやまをで　ハこそふへハテ
きろきふはごんぶりハいくらごてきいてこう。ト　ごいろ
とごや。ゆへこう。そして　ゆごハとゆへば　ゆ女ト　ごこ
ゆよ。よしこう。大ケがこゆ。よしこう。ゆ　ゆこきふてこう。これが
こゆ女ト　こきこゆがいうこふちごハあるゆへ　そこで

人こゆ　ゆへ　ゆ女ト。ゆこて　こうゆへ　ゆへ　ゆへあるゆへ
ゆ女こう。よふちゆこくこ。ごんこうこうふおるこゆやこふゆ。
ヨおこう　ゆ。こあ　ごゆア　ゆへ。ゆんこうふまるて　ゆる
トこごゆふうてゆこうこきふ。ゆここう。ゆふこふ。おき
つゆこきこゆ女きこゆこゆ　ゆモこうナ。ゆここう。ゆこのふこふ。おき
こうゆのここごゆこうゆきここうつゆる　ゆハテここうゆの　ゆこ
きくこゆこうこ。ゆここゆ　ゆこごゆこふ　ゆこうこうてゆる。こうゆへ
いこうこうこきこゆこ。こゆこ。ゆこゆこごゆこふこゆこいこうこう
ゆ女ト　ごこいこうこゆこゆこ　ゆへ　ゆへ　ゆへこごゆ　ゆここゆこ　ゆこゆこ　ゆこゆこ

まあ婦人はきくまぐるあるかんざ
きるまとと出ハイとれ。あるこの出ちよとまるまを。お
そうり出ハイとれ。あるこの出ちよとまるまを。お
かちるさんれませ。そのかかり。乃るこの代ばいいこぎ
まいこぶ。あぐこかめくおもらひいこぶきまを
んこるる。それを出ぬ出ぬやはうまませ。ハるあじく
ふるこのへこで出れてある。そらひやはういこぶ
ハイ。ハ。ハ。ハ

おつとりまとる。あやこ、ふの名麁で。ちゐさく
やまとこの。こゝ〳〵方でハ別ふつらせまして。
毛のくさ草ハのけまとこの。そゝて草もふゝん
ふとんのるいやうふ。摺出してあげるこいる。むさん
おさる〳〵ぎやが。蕃つも絡ごゝふゝてらけまを見る
陸ゝんぎこゝとこ。そんゐこゝがあるりん。他でもふさ
りの代ハ訳まだうやろう。男ゝくさよどやうり
ませんこの。ハテこゝいゝおゝ〳〵ゐまこゝ。あゐこ

りのと孫ゝぎおゝじ。ちうませト。ほめこゝふこゐゝ。
こゝゐて。ちうあるこ。ゐこゝ。こゝゐゝ。ゐこゝ。
あゐて。大ゐこゝこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。
ちゐこゝ。ちうゐ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。
ぎ

ぶよう 焼肉を出。すの中にごとうをゆくる。
日もとやセッさぐ〜ちれべいそぎこそまふ宮を
りわ。見体んくらぐゆくされよくこちてを在
の世高人いづまも陽ふ味茶苦 あるひの持ち連
ホ。撥ぐといづきて。四人ちはれぐち用たど
六ちん丸ちいやア。まんホいくらいやアコウ
人孫べぐうせ子めとあるるへのつ日しゆくへ陽アリ
まこ屋とるざるいい〜〜 ふまでらいまん

丸ちいやアトゆきくしの中ふ出るくの女ものおのく
ふ義とるろく。まうたちこそでくぐこ
ふぐのく陽りアさとぶハ都じやぐろもふぎれつる面
つきぶ。ちくひやうてさろふ中ホもさおめぐるこま
されらちくおりて陽だらアいろ。ふもめまぢやアを
ぬ〜トさせるとらぐ〜せ あきん人のそぐよう出ちんちふがくぷをひくん。
パッパ〜ぬ〜ふふおわへぐさア。ぐんざおちて人ものとよく
あるる女へきけてあるきるさるの中さよぶやくらい
中ホ 丸ホ はいくくる子りのとおいくるんざア。丸ぬ月や丸ぬ

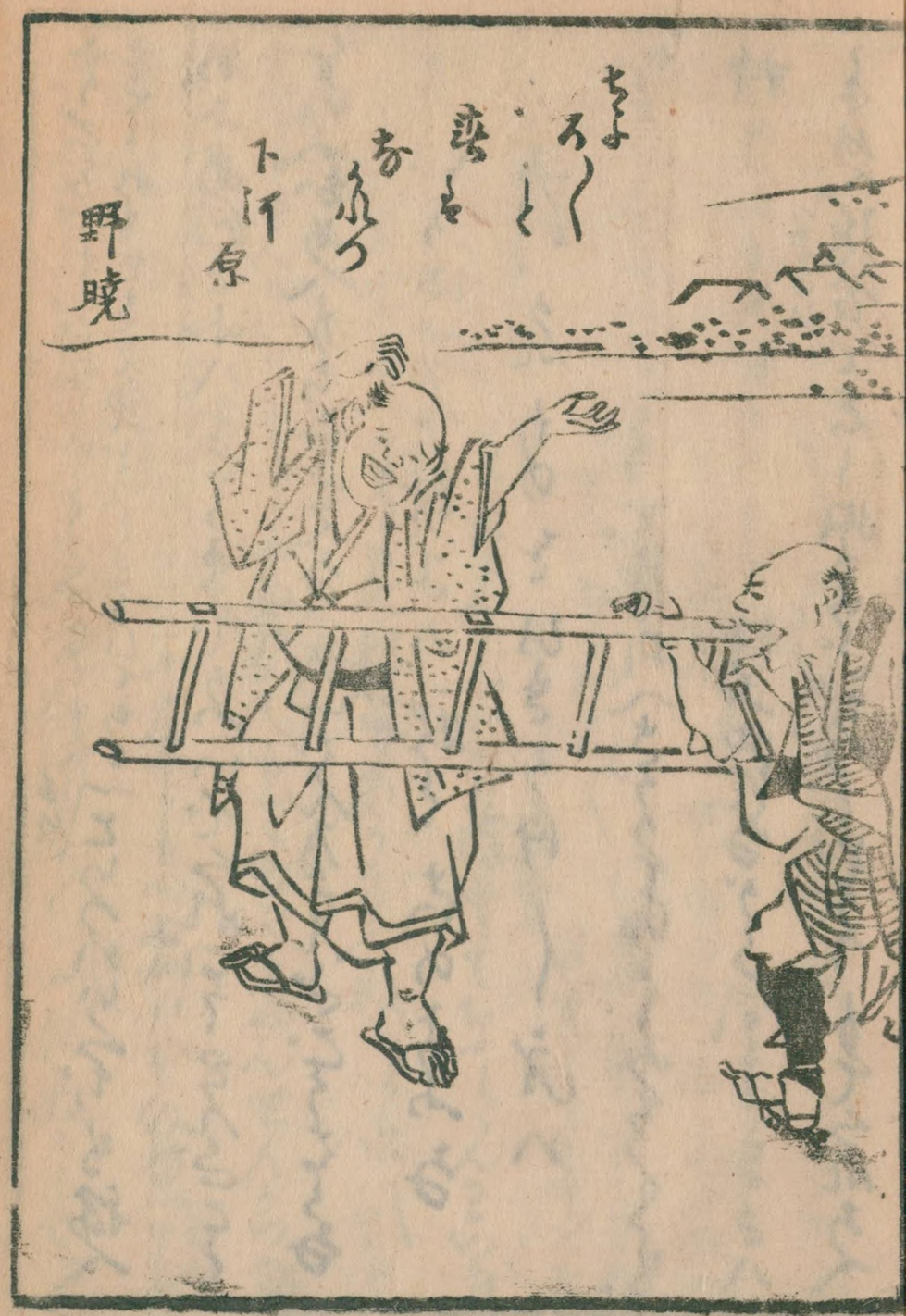
同あつかをさ。あつあでうまへ〜さわのぐへ。おまい
さんへうどん屋の杉ヲひき者やあろうヲ同て
ほめへぐまつてゐろへ。おまいさんぐさア。ぐふぐは
連手ぎうておんらの方十二まうこまつて。うい
てへがつりやアおそい。うろち〜ぐあぐやア。みんでも我
りの。ものヲ。そ〜そ四角ヲまうこまでヲくちやア
るふあへ絵へ。ぐあ〜。四角ヲ〜〜連手でおむり
きへんきヲ〜大ぐきまうむちもぐ四角ぐやまうろ

ヲうヲ。そうあきもう〜おいう〜ぐ雨ぐやア。完義でみ
むとまうろ。うあ〜〜きヲ〜〜ん。きまう〜ヲかうとぐや
うヲ。アノ連手おいやヲ〜。杉子ヲくうておうまへん
うヲ。ぐ〜〜ちごおりうへぐいうぐ。ぐ〜〜へヲふも
ふう〜〜んさうい。安〜てあぐきようヲ。いふうへせ
ぐ石おうヲ。ヲ〜ぐ。ヲ〜さ。アノ。ぐやくうあて
ぐやこうヲ。ちう〜〜ぐんせ。いやさくぐあ
まいよん。ヲいふあぐふ〜てあうヲ。モシ。ヲ

ふあぎよういる。いやく。よいこのる。そもしいん
ぐう。ひろうまこあふ。我ゑふまけこあぎこよこいる
やア。まけろう。情ゐいことりんぐきふうそうやきん
りんぐやこうゑ。いこうやとくいそも。たこごと男そ
ぐふきるりんぐ。内も強くらせよ。よいこうゑかて
いるんせ。こりこいあやまる。あうゆうへ。おこうへ強の
りのぐ。こよい。青ハ二三第よこゑろうこいふのぐうこ匹
ぐとうこいそもきこぐ。強くぐ。おふいいんきぐいる

いこんりのとつけきんきとこいちふんこうゑ。ツルやりふ走を
つけぐ。ふしふう。宵ぐこう。強くりのぐも。秋こふこうこうゑきこる
りのちこう。黄こもやこりふぐ。強とりここもこぐもぐもこぐこう
おこれこりこ。ぐこきぐやこ。ここここらをちふぐこんここのこう
いるきこちやきゑ。黄ぐやこりこる。そもいこるこいゆぐや。りて
いるんせ　トせこもぐくこうぐふやこゑこここきぐこうこ。強ぐこを
中ホこうこきこきこうこる。きぐこ。ぐ。あここ人ハ。こるいこうこて
きのいこのゆぐこうこくぐこんせぐ。りのこぐこのこ。ゑこの人ハちゆぐこやこんこ
ありこきこりこぐこうこりこくこりこ。強ぐここれもこきぐ大きこふこと
まこうここぐこ。ぐこちひこゆここここここりこそこもりこここきこらめぐこ
あここ大こゑ女のここりこけこ。ハかもここここぐこ。強こゑ。ぐ。こして

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

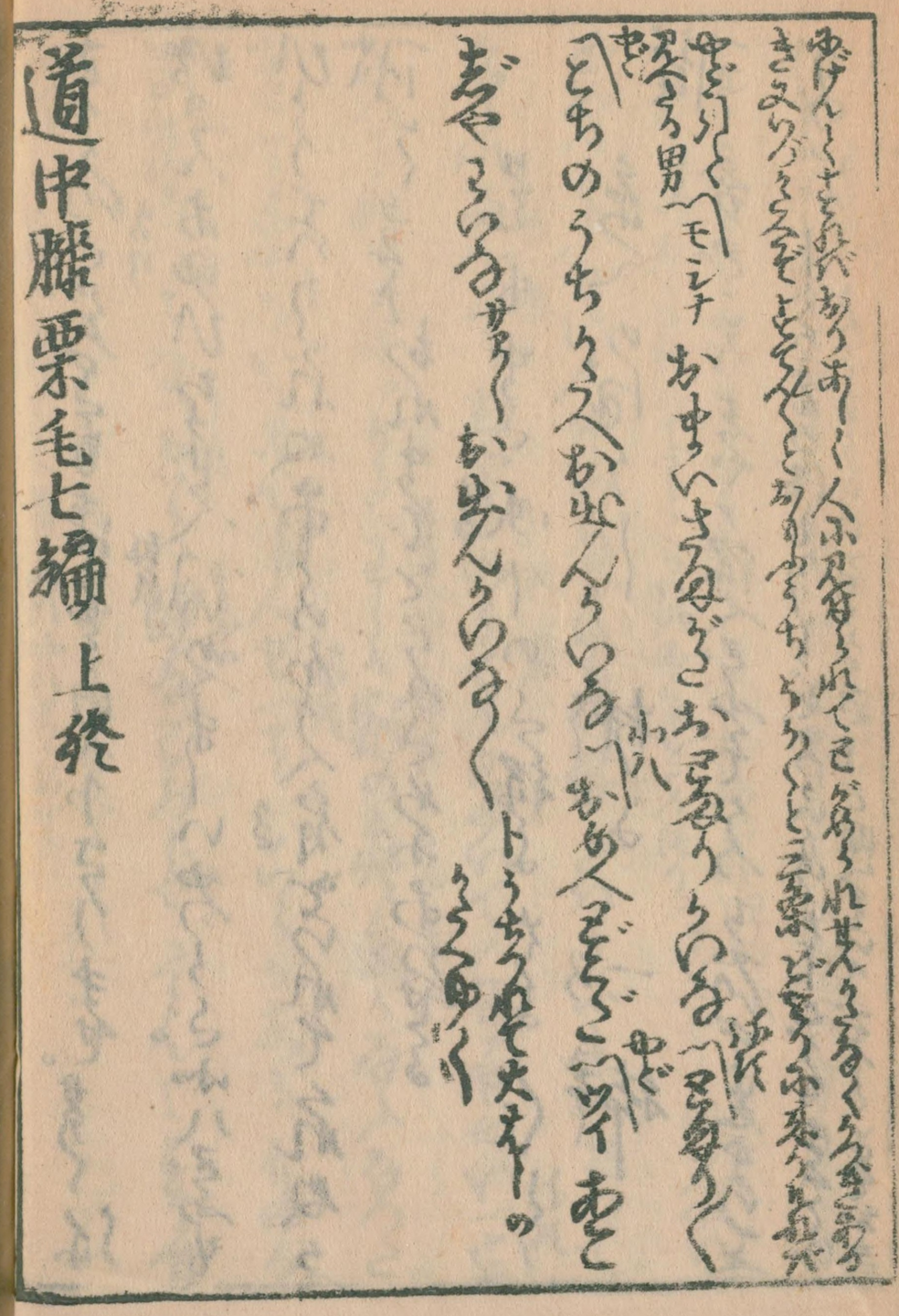


国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

ずりごろぐ、きしどどとふいとくくの足るまえ（俗）
きとられず、せどどんあへどうとらいてちる〳〵といろいろぐるを掃へ
ぬふあ〳〵。ふハとてとまでうへいでられ（俗）て、ちんぐこと
そらぐおめへりちきせへ合（俗）へ一ぢん足ちんぐこちる
いうふせん 枕（まくら）の釈（あや）く 点のようる
あ〳〵ん りのをひきうけ しく あい
かくて伊勢ごとうと。字町へさぐうてゆくみちくる。
枕のもちおりく〳〵て。はぐあれるぐ〳〵ふまきこハ
ちめへ 附合（つきあひ）をきくぬりのぐ。ちくむちうまてられうへ

いうきくみおめへ紙ぐうくへいひるくうきあぐくるくる
さぐおのとうへとう書せへ。アノ女どもの中うふ あく食へ
（俗）きけてりへて足ちせへ（俗）るわぐくしく。ふ（俗）ぬぐのをうくうきのせ（俗）ちあくくきしごとこ
のぐ。ちまふもちをへ（俗）ゆくこ。ちくらいのへ（俗）ニュりゃちんじあいる。（俗）浮世（俗）てちくうんこいる
（俗）ハくりくむうふぐ。きくうぐう足（俗）水であくうる。（俗）こりゃ（俗）
ぎううんがいくちるぐゃ。おひゃもて蚊（俗）や書んせんくいる
書うんうんくくんたるぐ。あるちるくくくくくくくくくい（俗）ぐこふ。ぎううんがいくぐいる（俗）アレ
あこへきぐこりていくくいる。おはよくく（俗）ぬくしゃア

あるゝ所なるゝ所ゝ〳〵イヤこのゞゝさくめら
トさゝゞをあるゝ所へのせてゝゝゞゝゝゝ



道中膝栗毛七編　上終

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用